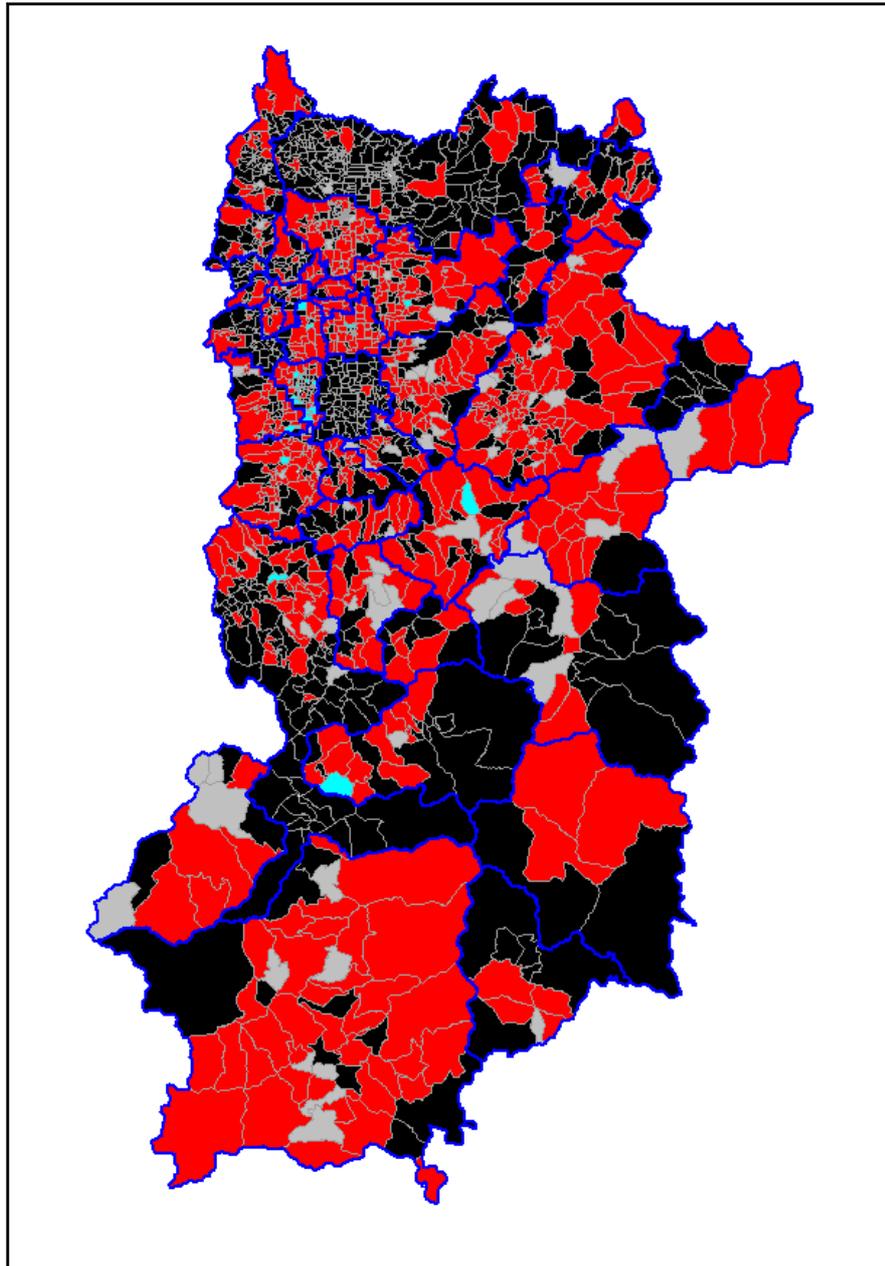


農業・林業集落アンケート調査によるカラスの生息状況・被害状況(平成26年度)

1. 平成26年度農業集落アンケート調査によるカラスの分布



左図は、平成26年度の農林業集落アンケート調査による、カラスの分布である。

農業集落でカラスが「いる」と回答があった場合に「いる」と回答があった場合に「分布している」とした。回収無しには既に人が住んでいない集落も含まれている。

カラスは都市環境や農耕地から、奥地森林まで各環境に適応して生息しているが、本設問の回答もそのようなカラスの生態を反映しており、本年度もほぼ県内全域から「いる」との回答があった。

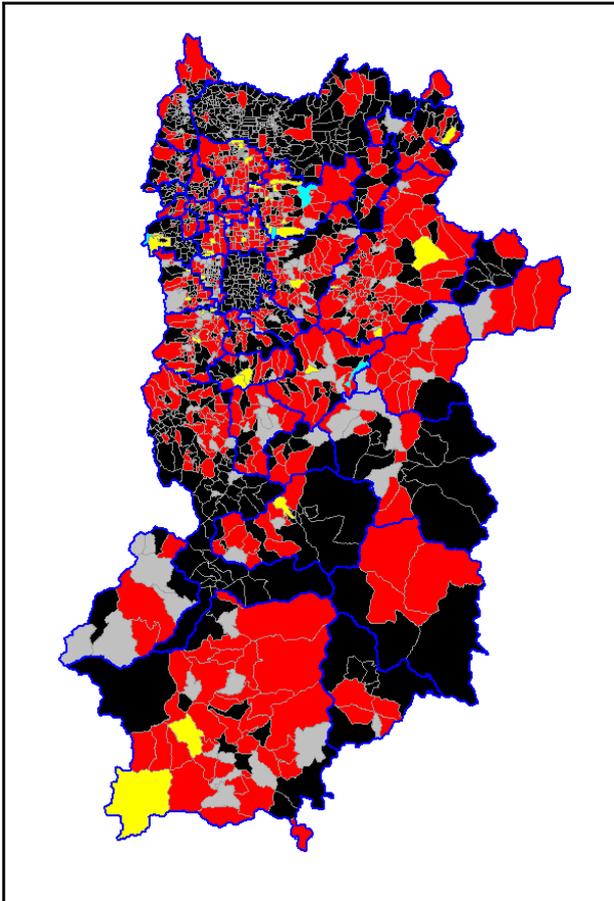
なお、ここでいう「カラス」は、ハシボソガラス及びハシブトガラスを想定している。

・平成26年度	
■ いる	630集落
■ いない	20集落
■ 回答無し	80集落
■ 回収無し	1072集落
計	1808集落

参考)平成25年度	
■ いる	559集落
■ いない	18集落
■ 回答無し	87集落
■ 回収無し	1144集落
計	1808集落

凡例 図中 青線 市町村界 市町村界内側の線 大字・地区界
なお、この市町村界、大字・地区界の凡例は次項以降の図も同様である

2. カラスの農地・集落周辺への出没(平成26年度)



左図は平成26年度の農業集落アンケートによる、カラスの農地・集落周辺への出没状況である。

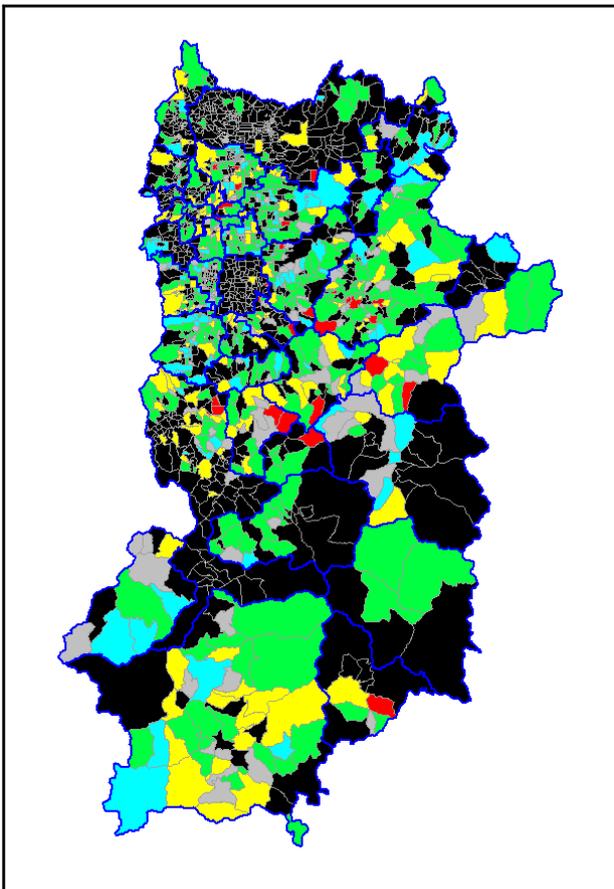
カラスが「いる」と回答があり、かつ本設問の回答があった集落の内訳は下記の通りである。

「よく見る」との回答は、ほぼ県内全域の90%以上の集落から回答があった。

・平成26年度	
■よく見る	560集落(92.9%)
■たまに見る	39集落(6.5%)
■あまり見ない	4集落(0.7%)
回答数	603集落

・参考)平成25年度	
■よく見る	436集落(88.1%)
■たまに見る	55集落(11.1%)
■あまり見ない	4集落(0.8%)
回答数	495集落

3. カラスの農業被害の大きさ(平成26年度)



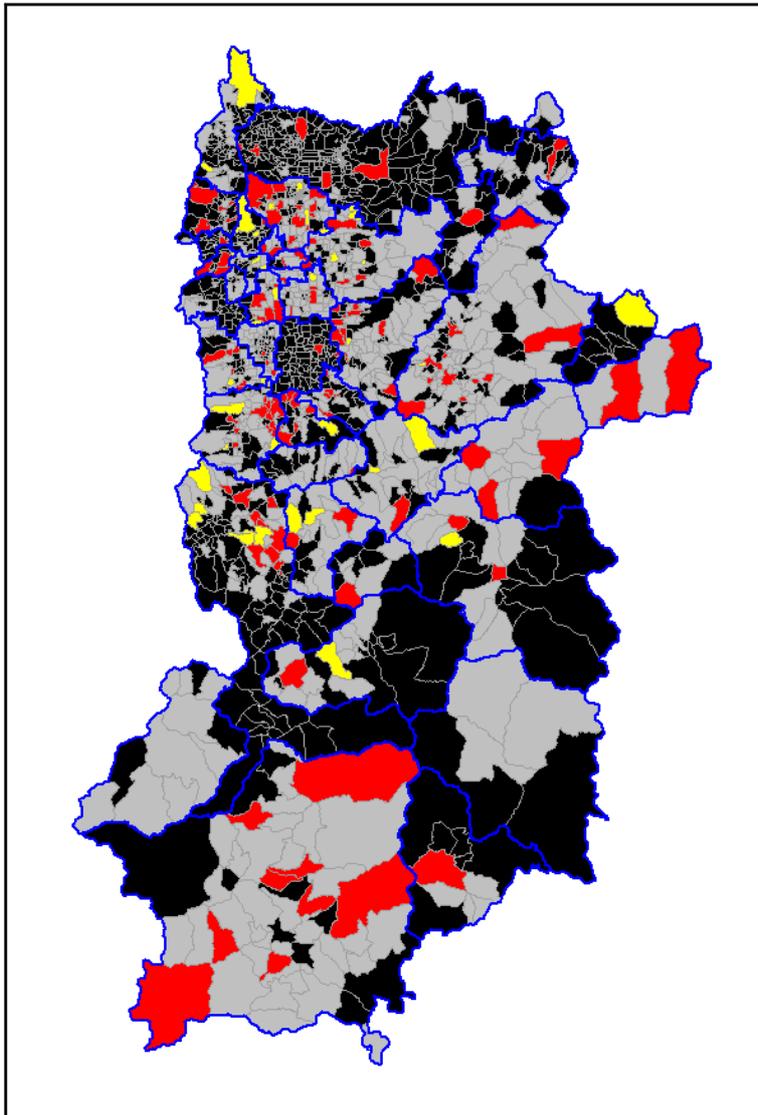
左図は平成26年度の農業集落アンケートによる、カラスによる農業被害の大きさの意識調査の結果である。カラスが「いる」と回答があり、かつ本設問に回答のあった集落の内訳は下記の通りである。

カラスの農業被害は、「軽微」なものが約58%と最も多かった。「大きい」と「深刻」を併せたものは約27%となり、県内に広くみられた。地域の状況によっては被害は大きくなると考えられる。カラスは鳥類の中でも学習能力が高いため、被害対策を実施していても、甚大な被害が発生している場合がある。

・平成26年度	
■ほとんど無い	98集落(15.6%)
■軽微	363集落(57.8%)
■大きい(生産量の30%未満)	139集落(22.1%)
■深刻(生産量の30%以上)	28集落(4.5%)
回答数	628集落

・参考)平成25年度	
■ほとんど無い	94集落(17.6%)
■軽微	308集落(57.6%)
■大きい(生産量の30%未満)	113集落(21.1%)
■深刻(生産量の30%以上)	20集落(3.7%)
回答数	535集落

4. カラスの衛生被害(平成26年度)



左図は平成26年度の農業集落アンケートによる、カラスによる衛生被害の意識調査の結果である。

衛生被害は、県内全域から回答があるが、県北部・中部で多い傾向にある。

・平成26年度	
■ 通年で糞被害等がある	136集落
■ 秋～冬に糞被害などがある	37集落
・平成25年度	
■ 通年で糞被害等がある	88集落
■ 秋～冬に糞被害などがある	32集落
・参考)平成24年度	
■ 通年で糞被害等がある	115集落
■ 秋～冬に糞被害などがある	47集落
・参考)平成23年度	
■ 通年で糞被害等がある	100集落
■ 秋～冬に糞被害などがある	60集落
・参考)平成22年度	
■ 通年で糞被害等がある	91集落
■ 秋～冬に糞被害などがある	45集落

別途設問では、衛生被害の発生要因についてを問うたが、本年度回答は合計14件あった。

その発生要因のうち、ゴミ収集日にゴミ集積所で生ゴミをあさる等のゴミを捨てることに関する要因が10件あった。各家庭からのゴミの捨て方や、ゴミ集積所ではゴミ袋を容易に破られないネットで覆う等簡単な処理で被害を防止することが可能であるため、住民に普及啓発し、改善することが重要である。ただし、簡易なネットをかぶせても防げないという意見も存在しているが、これは状況を確認したうえで対応策を検討することが必要である。

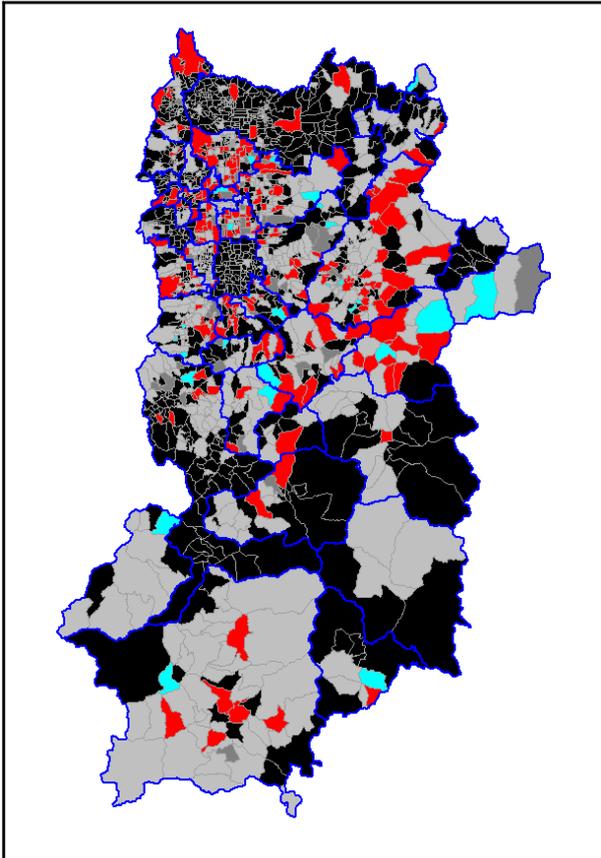
なお、コンポスターの導入や普及啓発によるゴミ捨てを適切にすること等で、衛生被害が減少することができたとの意見もあった。

その他の発生要因には、大規模なゴミ処理施設、食品会社の残滓処理不足、ねぐらの近くにある、人間を怖がらなくなった等の意見があった。

○衛生被害の要因として、ゴミ捨て関係が挙げられていた市町村

桜井市2件、御所市:2件、葛城市1件、宇陀市:2件、三宅町:1件、王寺町:1件、広陵町:1件

5. カラスの被害対策 防鳥ネットの効果(農地・平成26年度)



左図は平成26年度の農業集落アンケートによる、カラスの農業被害対策の、防鳥ネットの設置による効果の意識調査の結果である。

カラスが「いる」と回答があり、かつ本設問に回答のあった集落の内訳は下記の通りである。

防鳥ネットは農業被害対策として、効果が非常に高いことがわかる。しかし、防鳥ネットが設置できない場所もあるため、その場合はその他の効果的な手法により被害対策を実施する必要がある。

・平成26年度

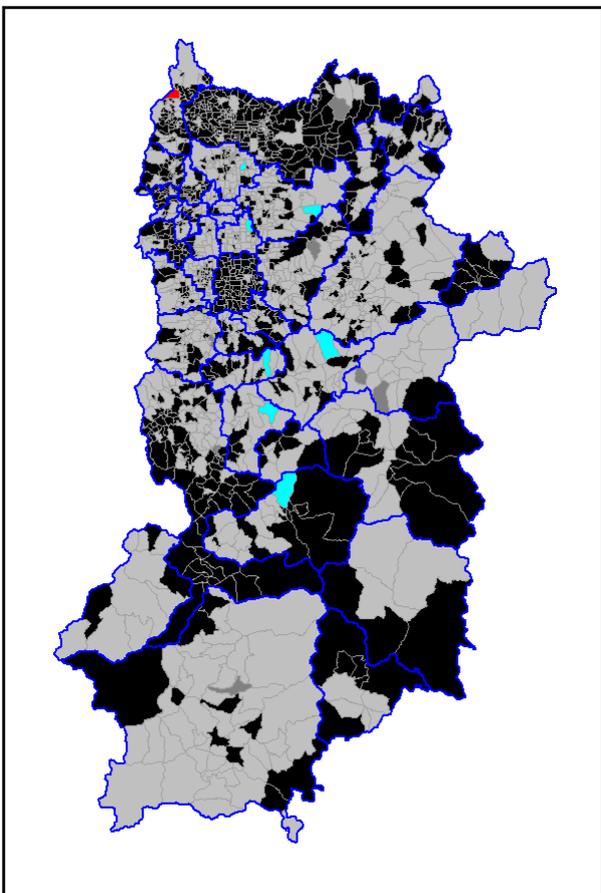
■効果があった	205集落(88.4%)
■効果がなかった	27集落(11.6%)
回答数	232集落

参考)平成25年度

■効果があった	203集落(88.6%)
■効果がなかった	26集落(11.4%)
回答数	229集落

その他では、テグス・防鳥糸などを張り巡らすことによって効果的に防除を実施している地域もあった。その他では、爆竹・花火などでの対策があったが、効果はあたり、なかったりとなっていた。

6. カラスの被害対策 有害捕獲の効果(農地・平成26年度)



左図は平成26年度の農業集落アンケートによる、農業被害対策の、有害捕獲を実施した効果の意識調査の結果である。

本設問の回答数は、8集落のみであった。

・平成26年度

■効果があった	1集落
■効果がなかった	7集落
回答数	8集落

参考)平成25年度

■効果があった	5集落
■効果がなかった	3集落
回答数	8集落